

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	ポルトガル語の関係詞の分類に関する一考察
Author(s)	坂東, 照啓
Citation	ニダバ , 25 : 75 - 84
Issue Date	1996-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047990
Right	
Relation	



ポルトガル語の関係詞の分類に関する一考察

坂 東 照 啓

0. はじめに

関係詞は一般に関係節を導く接続詞的な機能と関係節における何らかの文の要素としての役割を担うと考えられる要素である。関係詞はただ1つの役割のみを果たしている単純な要素ではないということである。このような2つの機能を同時に担うという複雑な性質を有する関係詞、及びそれが導く関係節の構造については、これまでさまざまな立場から考察がなされてきた。しかしながら、この関係詞及び関係節に関する見解は一致をみていない。

ポルトガル語の関係詞・関係節についてもさまざまな記述が見受けられる。しかし、ポルトガル語の場合は、関係詞の分類という基本的と言える問題についても、まだ検討の余地が残されているようである。今後、さらに関係詞・関係節の記述を進めていくためにも、この基本的な問題について、従来のポルトガル語の関係詞に関する一般的な記述から問題点を指摘し、関係詞の分類をここであらためて考えておきたい。

1. 伝統的な記述と文法用語に関する問題点

1. 1. *pronome* の下位分類

ポルトガル語における関係詞は、伝統的な文法の枠組みにおいて *pronome relativo* として記述されている。ただし、*pronome relativo* として記述されている要素は、多くの伝統的立場をとる文法書において、いわゆる関係代名詞に限られていないのである。一般に関係代名詞と考えられている *que*, *quem*, *o qual* (/a qual/ os quais/ as quais), *quanto* (/quanta/ quantos/ quantas) だけではなく、関係形容詞、関係副詞と考えられている *cujo* (/cujas /cujos /cujas), *onde* なども *pronome relativo* として記述されているのである。つまり、*pronome relativo* は、ポルトガル語の伝統的な文法用語としては関係詞一般を意味しており、関係代名詞だけではなく、関係形容詞、関係副詞なども含めたすべての関係詞を示す用語となっ

ているのである。

ポルトガル語でこのように関係詞を意味する *pronome relativo* は、一般に6種に分類されている *pronome* のうちの1つである。つまり、*pronome* という語類が6種に分類されているのである。(1a-1f) がその下位分類されている6種の *pronome* である⁽¹⁾。

- (1) a. *pronomes pessoais*
- b. *pronomes possessivos*
- c. *pronomes demonstrativos*
- d. *pronomes indefinidos*
- e. *pronomes interrogativos*
- f. *pronomes relativos*

ここで、仮に *pronome(s)* を「代名詞」であるとすると、(1a) は「人称代名詞」、(1b) は「所有代名詞」、(1c) は「指示代名詞」、(1d) は「不定代名詞」、(1e) は「疑問代名詞」、(1f) は「関係代名詞」ということになる。しかし、(1a-1e) に対するこの日本語には注意が必要である。というのは、先に述べたように、*pronome relativo* は「関係代名詞」ではないからである。*pronome relativo* には、関係代名詞のみならず、関係形容詞、関係副詞も含まれている。従って、関係代名詞だけではなく、関係形容詞や関係副詞をも意味する *pronome relativo* を「関係代名詞」と言うことは正確さに欠けると考えられる。さらに、(1b-1e) についても、実際にそれぞれが対象として含んでいる要素は、いわゆる代名詞に限られていない⁽²⁾。(1b) には形容詞とみなされる *meu, teu, seu, nosso, vosso* (及びこれらの性数変化形) が含まれており、(1c) には形容詞とみなされる *este, esse, aquele* (及びこれらの性数変化形) が含まれており、(1d) には形容詞とみなされる *todo, algum* などが含まれており、(1e) には形容詞とみなされる *qual, quanto* (及びこれらの性数変化形) が含まれている⁽³⁾。このことから、*pronome* はいわゆる代名詞ではないと考えられる。*pronome* として分類される要素には、代名詞、形容詞、そして副詞が含まれているのである。

1. 2. *pronome* とみなされる語群

一般に (1a-1f) の6種に分類される *pronome* には、代名詞のみならず、形容詞、副詞が含まれている。しかしながら、この *pronome* は代名詞、形容詞、副詞という3つの品詞に対する上位概念を表わす用語というわけではない。確かに、いわゆる代名詞についてはすべて *pronome* に分類されているが、*pronome* として分類されている形容詞、副詞はいわゆる形容詞、副詞の一部にすぎない。(2) において2つの形容詞と2つの副詞が観察されるが、その

うち *pronome* として分類される要素は1つだけである。(以下、本稿で用いる略号・記号については後に一括して掲げる)

(2) A reunião estava muito interessante,
the-f-sg meeting-f be-IdPI-3sg very interesting-f-sg
mas Ana saiu cedo porque tinha
but Ann-f leave-IdPP-3sg early because have-IdPI-3sg
outros afazeres.
anothers-m work-m-pl

「集会はとてもおもしろかったが、アナは他の仕事があったので早く出ていった」

(2) において *interessante*, *outros* は形容詞、*muito*, *cedo* は副詞であると考えられる。しかし、これらすべてが *pronome* として分類されるわけではない。この4つのうち普通 *pronome* として分類される要素は *outros* のみで、*interessante* は *adjetivo* (形容詞)、*muito*, *cedo* は *advérbio* (副詞) とみなされる。つまり、*pronome* とは別の語類として *adjetivo*, *advérbio* が考えられており、*pronome* の下位分類として形容詞や副詞が存在しているということではないのである。

それでは、代名詞に加え一部の形容詞、副詞と考えられる要素をも取り込んでいる *pronome* は、どのような語類なのであろうか。伝統的な文法の枠組みにおける *pronome* に関する記述としては、Said Ali による (3) が知られている。

(3) PRONOME é a palavra que denota o ente ou a ele se refere, considerando-o apenas como pessoa do discurso. (1964:61)

「*pronome* は、人・ものを指示するか、あるいは人・ものに言及する語である。ただし、この場合、*pronome* はその人・ものを単に談話での (文法的な) 人称として受ける」

pronome に関する伝統文法での代表的な記述である (3) には、*pronome* の意味的特徴は示されているが、その一方で形態的、統語的特徴については示されていない。つまり、*pronome* というのは意味的特徴から定義づけられている語類であると考えられる。言い換えれば、*pronome* は形態的、統語的特徴から分類されているのではないということである。そのため、*pronome* は、形態的、統語的特徴から規定されるいわゆる「代名詞」と一致しないわけである。実際、(3) の記述に相当する要素は、代名詞というより、指示語や照応語である。

このように、伝統文法で一般に用いられている *pronome* という用語は意味的特徴に基づく語群を示しており、主に形態的、統語的基準によって分類され

る品詞を表わすものではないと考えられる。ところが、ポルトガル語文法において普通この **pronome** は1つの品詞としてみなされているのである⁽⁴⁾。この点については、従来の品詞の分類基準に問題がないと言えなくはない。というのは、不定形容詞や関係副詞などは **pronome** であり、かつ別の品詞である形容詞あるいは副詞としても分類されうることになり、同時に2つの品詞に分類されてしまうからである。つまり、代名詞ではない **pronome** については、形態的、統語的特徴に基づくならば **adjetivo** または **advérbio** としても分類されうるからである。

こうした問題点のある **pronome** という用語に対しては、(3)の記述に基づく限りは、統語的、形態的基準を重視して分類される代名詞というより、「代用語」と考えておいた方が少なくとも誤解は避けられるであろう。もしそれでも **pronome** を代名詞と呼ぶのであれば、上で述べてきたような説明を加えておく必要があるだろう。

このように **pronome** が代用語であることから、(1a-1f)に対応する「人称代名詞」、「所有代名詞」、「指示代名詞」、「不定代名詞」、「疑問代名詞」、「関係代名詞」というそれぞれの日本語訳は検討を要する⁽⁵⁾。本稿で直接扱う(1f)に限っても、関係代名詞のみならず関係形容詞、関係副詞などすべての関係詞を含む用語なので、これを「関係代名詞」といった限定した呼び方はできない。この **pronome relativo** については、関係詞すべてを指す用語であることから、ここでは単に「関係詞」とする。

1. 3. 関係詞の分類基準

一般に、関係詞(**pronome relativo**)は、性数の変化があるかないかという観点から、(4a)無変化語と(4b)変化語の区別がなされている。

- (4) a. **que, quem, onde, como, quando**
- b. **o qual, cujo, quanto**

さらに、関係節における役割によっても、(5a)代名詞、(5b)形容詞、(5c)副詞の区別がなされている。

- (5) a. **que, quem, o qual, quanto**
- b. **cujo**
- c. **onde, como, quando**

(4a, b), (5a, b, c)のように関係詞は形態的観点、統語的観点から分類されうる。(4a, b)、(5a, b, c)は、(6)のようにまとめることができる。

(6)

性数変化 役割	あり	なし
代名詞	o qual, quanto	que, quem
形容詞	cujo	
副詞		onde, como, quando

(6) では、関係詞が4つに分類されており、この一般的な分類に特に問題はないように見える。しかし、いくつかの関係詞については(6)における分類とは異なる解釈もなされうる。つまり、(6)とは異なる分類もなされうるのである。その分類上問題となる関係詞は、o qual, cujo, onde である。これらはそれぞれ、関係代名詞、関係形容詞、関係副詞とみなされてきたものだが、それとは異なる解釈もなされうる。仮に、この3つの関係詞についての異なる解釈が妥当であれば、(6)とは異なる分類が示されることになる。

2. 関係代名詞

接続詞的機能と代名詞的(=名詞句的)機能を担っていると考えられる要素が関係代名詞である。一般には(7) - (10)に現れているような que, quem, os quais (o qual), quanto が関係代名詞とみなされている。

(7) O homem que não comete erros
the-m-sg man-m that not commit-IdPS-3sg errors-m
geralmente nada fez.
generally nothing do-IdPP-3sg

「失敗を犯していない人はたいてい何もしなかったのだ」

(8) As pessoas a quem me dirigi
the-f-pl persons-f to whom myself direct-IdPP-1sg
foram muito simpáticas.
be-IdPP-3pl very nice-f-pl

「私が近づいていった人々はとても感じが良い」

(9) Os filmes pelos quais tanto
the-m-pl films-m for+the-m-pl which-pl much
esperamos serão exibidos logo mais.
wait-IdPS-1pl be-IdFS-3pl exhibit-Pp-m-pl soon more

「私たちがとても待ち望んでいる映画はまもなく公開される」

(10) Aquele homem deixou tudo quanto tinha
that-m man-m leave-IdPP-3sg all that have-IdPI-3sg

aos pobres.
to+the-m-pl poors-m

「あの人は持っていたすべてのものを貧しい人たちに与えた」

一般に関係代名詞として記述されているこれら4つの関係代名詞のうち、1つだけ特殊な形式であることが観察される。それは、定冠詞と *qual* の組み合わせからなる関係詞 *o qual* である。他の3つの関係代名詞は定冠詞を伴わずに代名詞的機能を担うにもかかわらず、この関係代名詞だけは *qual* が定冠詞を伴った形式で代名詞的機能を果たしているのである。

確かに、*o qual* 全体としては関係代名詞としての機能を果たしているようである。しかし、この形式に関する疑問は、なぜ、他の関係代名詞と異なり定冠詞が現れるのか、あるいは、この定冠詞との組み合わせの形式における *qual* 自体はどのような要素なのかということである。

このことを考えていくにあたって、まずは Ali(1964:65) での関係詞 *o qual* に関する記述を見ておきたい。

(11) *O qual* toma, de acordo com o gênero e número do antecedente, as formas *o qual*, *a qual*, *os quais*, *as quais*. Pode-se-lhe juntar um nome que é a repetição do antecedente; mas de ordinário deixa-se de repetir este termo, a não ser que o peça a ênfase ou a clareza da frase: ...

「*O qual* は先行詞の性と数に従って *o qual*, *a qual*, *os quais*, *as quais* という形式をとる。先行詞の繰り返しとなる名詞を伴いうるが、普通、この名詞は、強調をするかあるいは文意を明確にする必要がなければ繰り返されない」

(11) で注目される点は、*o qual* とともに先行詞の名詞が繰り返して用いられる場合もあるということである⁽⁶⁾。Luft(1986:122) に (12) のような例が示されている。

(12) Li apenas um romance nas
read-IdPP-1sg only one-m novel-m in+the-f-pl
férias; o qual romance, aliás, pouco
holidays-f the-m-sg which-sg novel-m however little
me agradou.
me please-IdPP-3sg

「私は休暇中たった1編の小説しか読まなかったが、その小説は私にはあまりおもしろくなかった」

(12) では先行詞の名詞 *romance* が *qual* の後にも再び現れている。この場合、*o qual* だけではなく、名詞 *romance* を加えた [*o qual romance*] 全体が代名詞的機能を有し、名詞句の構造をなしているとみなされる。ここで

この名詞句を観察すると、*qual* は後続の名詞 *romance* を修飾している形容詞ではないかと考えられる。*qual* が形容詞であるとする、[o *qual* *romance*] は、ポルトガル語の通常の語順に従えば、そもそも [o *romance* *qual*] という構造があって、この構造から派生しているものと考えられる。つまり、先行詞の名詞を伴う o *qual* は、[o/a/os/as 先行詞名詞 *qual/quais*] という構造から、*qual/quais* が先行詞名詞の前に移動した形式と分析されるのである。

さらにこの [o/a/os/as 先行詞名詞 *qual/quais*] は、先行詞の名詞を伴う o *qual* の場合だけではなく、名詞を伴わない o *qual* の場合でも基底構造として考えられる。つまり、(9) での *os quais* の場合は、[*os filmes* *quais*] という構造から、形容詞と考えられる *qual* の修飾を受ける位置にある *filmes* が省略されている (=音形を失っている) 形式と分析される。

すなわち、[o/a/os/as 先行詞名詞 *qual/quais*] という構造から、*qual/quais* が先行詞名詞の前に移動するか、あるいは先行詞名詞が省略されるかという2つの操作のうち1つが選択されているのである。この選択基準は (11) として示した Ali (1964:65) に述べられているように、強調をするかあるいは文意を明確にする必要があるかということである。強調をするかあるいは文意を明確にする必要がある場合には、(12) のように *qual/quais* が先行詞名詞の前に移動して、[o/a/os/as *qual/quais* 先行詞名詞] となり、それ以外の場合には、(9) のように先行詞名詞が省略されて、[o/a/os/as *qual/quais*] となると考えられる。

以上の考察から、一般に関係代名詞として記述されている o *qual* については、定冠詞、省略されている (=音形の無い) 先行詞名詞、形容詞の機能を担っている関係詞 *qual* に分析できる。言い換えれば、一般には、定冠詞、省略されている先行詞名詞、形容詞の機能を担っている関係詞 *qual* をまとめて1つの関係代名詞として記述しているということになる。それゆえ、この *qual* 自体については関係代名詞ではなく、関係形容詞とみなしうる。

3. 関係形容詞

接続詞的機能と形容詞的機能を担っていると考えられる要素が関係形容詞である。前章で *qual* が関係形容詞として考えられることを述べたが、一般には (13) に現れているような *cujas* (*cujo*) が関係形容詞とみなされている。

- (13) *Os alunos cujas idéias são*
 the-m-pl pupils-m whose-f-pl ideas-f be-IdPS-3pl
claras fazem boas redações.
 clear-f-pl make-IdPS-3pl good-f-pl compositions-f

「考えがはっきりしてしている生徒は良い作文をする」

関係詞 *cujo* について Cunha(1980:354) では (14) のように記述されている。

(14) *Cujo é, a um tempo, relativo e possessivo, equivalente pelo sentido a do qual, de quem, de que. Emprega-se apenas como pronome adjetivo e concorda com a coisa possuída em gênero e número.*

「*cujo* は関係詞であり、かつまた、所有詞であって、*do qual, de quem, de que* と同意である。形容詞 (的代用語) としてのみ用いられ、所有されるものと性数が一致する」

Luft(1986:123) においても、*cujo* は *pronome possessivo relativo* (所有関係詞) と記述されており、一般に所有形容詞と関係詞の機能を併せ持つ形式とみなされているようである。確かに、*cujo* は接続詞的機能とともに後の名詞を修飾する所有形容詞的な意味を持っている。

しかし、この *cujo* は統語的観点からは所有形容詞とは明らかに異なる特徴を持っている。それは、もし *cujo* が所有形容詞であるとするれば、冠詞を伴いするはずなのだが、実際には *cujo* に冠詞が伴わないという点である。

(15) *Os alunos {as cujas idéias/as idéias cujas} são claras fazem boas redações.

このことから、*cujo* はたとえ所有形容詞的な意味を持っているとしても、統語的観点からは所有形容詞ではないと考えられる。*cujo* については、その生起する位置が常に名詞の前であり、そしてまたその名詞の修飾語として形容詞が生起しうるといった特徴がある。こうした特徴から、*cujo* は限定詞としての機能を担っていると考えられる。それゆえ、*cujo* は接続詞的機能と限定詞としての機能を併せ持つ関係限定詞とみなしうる。

4. 関係副詞

接続詞的機能と副詞的機能を担っていると考えられる要素が関係副詞である。

(16) - (18) に現れているような *onde, quando, como* が関係副詞とみなされている。

(16) A casa onde vou morar é
the-f-sg house-f where go-IdPS-1sg live-If be-IdPS-3sg
velha.
old-f-sg

「私が住もうとしている家は古い」

(17) Afinal, era chegado o dia quando
finally be-IdPI-3sg come-Pp the-m-sg day-m when

teríamos de resolver o caso.

have-IdPI-1pl to resolve-If the-m-sg case-m

「ついにその事件を解決しなければならない日が来ていた」

(18) Já acertamos o modo como

already settle-IdPP-1pl the-m-sg way-m how

haverei de lhe pagar.

have-IdFS-1sg to for you pay-If

「すでに私たちは私があなたに支払う方法を取り決めました」

一般に関係副詞とみなされているこれら3つのうち、onde だけは前置詞の目的語の位置にも生起するという特徴がある。

(19) Os lugares por onde passamos

the-m-pl places-m through where pass-IdPP-1pl

deixaram-nos boas recordações.

leave-IdPP-3pl+for us good-f-pl remembrances-f

「私たちが通った場所は良い思い出を私たちに残してくれました」

このような前置詞の目的語として用いられる場合の onde は、副詞的機能ではなく、代名詞的機能を担っていると分析される。従って、(19)における onde は(16)における onde と異なり、関係代名詞であって、関係副詞とは考えられない。ところが、こうした用法があるにもかかわらず、onde を関係代名詞とみなしている記述は見られないのである。この用法については、関係副詞である onde の例外的な用法として扱い、あくまで onde は基本的に関係副詞であると考えているようである。

しかしながら、onde の関係副詞としての用法が関係代名詞としての用法より基本的であるといった主張をする根拠はなさそうである。そうすると、逆に、基本的に関係代名詞である onde に関係副詞的用法もあるという見方もできるはずである。実際、onde を関係代名詞であると考えた場合、表面上関係副詞的な(16)の onde も、音形を持たない前置詞の目的語になっていると分析される。つまり、(16)の関係節は [[p onde] vou morar] (ただし、p は音形を持たない前置詞) という構造を持っていると考えられるわけである。一般的に、この音形を持たない前置詞が現れるのは、それが em に相当する場合と、文体的な要因による場合だけであると考えられる。

5. 結論にかえて

本稿で述べてきたように、qual は形容詞の役割を担う関係詞、cujo は限定詞の役割を担う関係詞、onde は代名詞の役割を担う関係詞と分類される。従って、一般に考えられている関係詞の分類である(6)に対し、次のような分類が提案されることになる。

性数変化 役割	あり	なし
代名詞	quanto	que, quem, onde
形容詞	qual	
副詞		quando, como
限定詞	cujo	

紙幅の都合で本稿では触れられなかったが、先行詞との意味的關係に基づく分類も考えられる。この点については別の機会に議論したい。

【注】

- (1) (1a-1f) に *pronomes de tratamento* (待遇の「代名詞」) を加え *pronomes* を7種に分類する文法家もある。
- (2) 代名詞の定義についても必ずしも意見の一致があるわけではないが、ここでは名詞句の機能を担う要素として代名詞を考えるものとする。
- (3) 文法家によっては、さらに *aqui, aí, ali, lá* といった副詞も *pronomes* とみなしている。
- (4) 一般にポルトガル語文法では、*substantivo* (名詞), *artigo* (冠詞), *adjetivo* (形容詞), *numeral* (数詞), *pronomes* (代名詞), *verbo* (動詞), *advérbio* (副詞), *preposição* (前置詞), *conjunção* (接続詞), *interjeição* (間投詞) という10種の品詞 (*classes de palavras*) を設定し、語を分類している。
- (5) (1a) *pronomes pessoais* として分類される要素に関しては実際にはすべてが代名詞的機能を担っているの、これについては「人称代名詞」と言う。
- (6) (12) のような *qual* に続き先行詞の名詞が繰り返される例は、実際にはあまり見られない。

【略記号】

IdPS	直説法現在	Pp	過去分詞	m	男性
IdPI	直説法未完了過去	If	不定詞	f	女性
IdPP	直説法完了過去	1	1人称	sg	単数
IdFS	直説法未来	3	3人称	pl	複数
IdFT	直説法過去未来				

【参考文献】

- Ali, M. Said. (1964): *Gramática Secundária da Língua Portuguesa*. Melhoramentos. São Paulo.
- Ali, M. Said. (1965): *Gramática Elementar da Língua Portuguesa*. Melhoramentos. São Paulo.
- 坂東照啓 (1991): 「ポルトガル語の關係代名詞 *qual* について」『ロマンス語研究』24. pp.3-9.
- 坂東照啓 (1995): 「ポルトガル語の關係詞 *cujo* (*cuja, cujos, cujas*) に関する記述上の問題点」『大阪外国語大学論集』第13号 pp.1-15.
- Cunha, Celso Ferreira da. (1980): *Gramática da Língua Portuguesa*. FENAME, Rio de Janeiro.
- Larson, Richard K. (1985): "Bare-NP Adverb." *Linguistic Inquiry* 16, 595-621.
- Luft, Celso Pedro. (1986): *Moderna Gramática Brasileira*. Globo, Rio de Janeiro.